

## 昭和20年の福原国民学校

左の写真は、昭和20年の福原国民学校(現在の福原小学校)でつづられた日誌です。

この日誌には、児童の出席・欠席人数や、特記的な事項が書かれていて、その記述を見ると、来校者や欠席者の名前、児童たちの労働奉仕、警戒警報・空襲警報が発令された様子などが分かります。左の写真にある8月15日には、「正午、天皇御自ララジオニテ御放送 詔書下サル」と書かれていて、昭和天皇による玉音放送が行われたことが記されています。この日の気温は32度、前日の14日が28度だったので、「あの日は暑かった」とよく言われていることが分かります。

市立博物館で開催中の収蔵品展「戦中・戦後の川越の歩み」では、この日誌をはじめ、主に昭和10〜20年代の資料約140点を紹介し、この時期の川越の歩みを振り返ります。多くの皆さんから頂いた資料を通して、出征した兵士や兵士を送り出した人々がどんな境遇にあったのか、どのような時代だったのかを学び、平和な時代に生きる尊さを考える機会となれば幸いです。



日誌の表紙(左下)と8月15日の記述

期間：9月2日(日)まで  
 経費：入館料200円



## 「川越いも」の始まりと現在

「川越いも」は、市南部に広がる畑作地帯や、現在の三芳町、所沢市、狭山市、ふじみ野市などを含む江戸時代の川越藩の領地とその周辺で生産されたサツマイモのことで、約270年の伝統があります。

川越いもが有名になった理由は、江戸で焼き芋用のイモとして広まったことからです。寛政年間(1789~1801)に、江戸の町に焼き芋屋が現れ、たちまち庶民のおやつとして大好評になりました。特に、「川越産」のものは質的に優れていたため、「本場もの」と言われました。新河岸川の舟運を利用して運ばれた川越いもは、その後、

明治時代の焼き芋屋の隆盛とともに栄え、特に福原村(現在の今福)では、サツマイモの収穫量を倍以上にする増収法を確立した赤沢仁兵衛(1837~1920)という生産者まで現れました。



赤沢仁兵衛

現在、生産量は最盛期の10分の1以下になってしまいましたが、生産農家による団体「川越いも研究会」が組織され、川越いもの伝統を守っています。

この時期に市内の直売所などで購入できる主な川越産野菜  
 ナス、キュウリ、オクラ、エタマメ、ゴボウ、カボチャ、ネギ、モロヘイヤ、コマツナ、ピーマン、ミニトマト、ゴーヤ、カブ



今年の小江戸川越花火大会は、8月25日(土)午後6時30分から、安比奈親水公園で開催されます。詳細については、9ページに掲載しています。それぞれ思い思いの場所で、自分だけが知っている特別な席で、花火をぜひご覧ください。

夏の風物詩のひとつ、花火。火薬のにおいや、大きな打ち上げの音、赤やオレンジ、緑などの色とりどりの大輪の花。見る場所や角度によって違う表情を見せる花火を、毎年楽しみにしている方も多いのではないのでしょうか。



編集後記

どんぶり

## 広報川越1420

「声の広報川越(CD)」 「点字広報川越」を作成しています。ご希望の方は、広報室までご相談ください。  
 ☎224-5495 ☎225-2171

- 発行日/平成30年8月10日(毎月10日・25日発行)
- 発行/川越市 〒350-8601埼玉県川越市元町1丁目3-1 <http://www.city.kawagoe.saitama.jp/>  
 ☎049-224-8811(代表) ☎049-225-2171
- 編集/広報室

私的利用の範囲を除き、記事や写真の無断転載を禁止します。

この印刷物は、グリーン購入法に適合する紙を使用し、印刷用の紙へ、リサイクルできます。



Fontworks  
 UDFont